

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・市内で新たな開発計画が進み、人口の流入もある程度見込めるので、景気は回復する。
		コンビニ（エリア担当）	・タスポカード導入の影響で当店の来客数が伸びている。その効果から、今後も良い状況が続く。
		家電量販店（店員）	・北京オリンピック開催による需要増に加え、地上デジタル放送対応の需要増もあり、デジタル家電が更に普及する。内容としては今よりやや良くなる。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・現状では、販売量もさることながら、来客数の増加も見受けられる。新年度ということもあって若干の需要増も見込まれるため、良くなる。
	観光型ホテル（経営者）	・現在の予約状況から判断すると、やや良くなる。	
	テーマパーク（職員）	・ゴールデンウィーク期間に向けてのステイプランの打ち出し、県のフラワーフェスタイベントと絡めた当社での春まつり企画等が始まっている。現時点での予約も動き始めているが、まだまだこれからの伸びに期待できる。	
	変わらない	商店街（代表者）	・消費者はメディアに大きな影響を受ける。ガソリンの価格も上がり、景気が良くなる話もないため、消費者は買い控えをし、実質収入も増えないことを懸念して購買には至らない。この傾向が今後も続く。
		商店街（代表者）	・今は卒業・入学・就職の時期で何かと物入りな時期であるにもかかわらず、石油の暫定税率の問題や商品の値上げ等の影響から客の買い控えがかなり深刻になっている。各家庭の生活がかなり深刻になってきている状況なので、今後も売上は変わらない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・今年は時化が多く、満足に入荷がない。魚価も上がり、仕入れが大変なのに売上が上がらない。国産にこだわる人はいるが、金額で断念している。この傾向は変わらない。
一般小売店〔食料雑貨〕（店員）		・飲食店では、原材料高騰に対応すべくメニューの値上げを検討しているが、客足が遠のくことを懸念し、実際には踏み切れないところが大半である。しかし、近日中の値上げは確実である。また、資金に余力があるところは今後大幅に値上げが予想される小麦粉や白絞油などを大量に購入している。駆け込み需要で一時的に売上が上がっても、4～6月期はその反動減が心配である。	
一般小売店〔茶〕（販売・事務）		・景気が悪いこともあり売上は減少しているが、地域にはマンションが多く、3月の異動による新しい客に期待できる。	
百貨店（売場主任）		・経済環境が不安定で、一般消費者が商品を積極的に購買するような状況ではない。ただ、業界では統合や、店舗の商号変更等でセールが大々的に行われるため、状況としては変わらない。	
百貨店（営業担当）		・買物目的の来客が多く、来客数は前年を下回っているが、レジ客数は前年並みである。正価品の売上シェアもやや高まり、必要な商品、関心度の高い商品の購入はある。ただ、衝動買いが減少している。	
百貨店（企画）		・個人消費が良くなっていく気配がない。先行きの消費マインドが不安である。	
百貨店（売場担当）		・衣料品についてみると、気温が高まるにつれて購買につながっており、必要なものは絶対買うという状況は変わっていない。ただし輸入品の値上げや原油高による値上げから、客の消費選択行動がかなりシビアになっている。また、商店街の来客数が減少し、空き店舗が増えている。大型店も3、4店舗あるが、景況感は変わっておらず、全体的には小康状態である。この傾向が今後も続く。	
百貨店（営業推進担当）	・厳しい商環境は変わらない。ただし、4月以降はイベント等の実施により、単月では向上の可能性はある。		
百貨店（業務担当）	・所得環境の改善が期待できる状況にはなく、さらに年金問題等、解決が先延ばしされているものが山積しており、当分消費に力強さが戻ることは考えられない。		
スーパー（店長）	・食品が値上がり傾向にあるが、競合店が値上げしないという店もあり、駆け引きが難しい。現在は改装効果で順調であるが、後は厳しい状況が予測される。		

スーパー（店長）	・商品価格の値上げがある一方でガソリン単価の低下もあるため、先月とあまり変わらない。ただし、値上げ等による家計への影響が目につくようになり、財布のひもが固くなりそうである。								
スーパー（総務担当）	・戦略的に価格を下げた商品での需要は見込めるものの、今後の商品の値上げに伴い、必要最小限だけ買いそろえるという傾向が強まり、買い控えが起こる。								
スーパー（企画担当）	・春からの原材料・商品の再値上げの影響や、中国産冷凍食品問題を筆頭に、中国産原材料を用いた食品に対する不安感が増幅しており、最も買い控えの対象となる食品小売業は需要が冷え込む。								
スーパー（経理担当）	・他店との競合は依然厳しいものの、消費が縮小しているわけではないため、販売量は維持できそうである。								
コンビニ（エリア担当・店長）	・今から花見の季節で一時的に来客数、単価が伸びることが期待できるが、それ以降の来客の継続はあまり期待できない。								
衣料品専門店（店員）	・ひどかった秋冬よりは少しましになっている。秋冬に比べると単価はもともと低いが、更に低い単価の商品は枚数売することで、もしくは高いものでも商品力を強めた営業をすることで何とか企業を存続していきたい。ただし、景気の面では非常に厳しく、何ひとつ良い材料がない。								
家電量販店（企画担当）	・全体的に売上が低迷している。家電品はオリンピックを控えて調子が良いはずなのだが、停滞傾向にある。この傾向が今後も続く。								
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・燃料油の仕入価格が高止まりしており、暫定税率期限切れの件で一時的な買い控えや特需があると思うが、大きな変化は考えにくい。								
高級レストラン（経営者）	・2、3か月先の予約状況は芳しくなく、景気は下向きである。								
スナック（経営者）	・まだしばらくは、厳しい現状からの出口が見つかるような要素がない。								
都市型ホテル（総支配人）	・需要拡大が望めるイベント開催や新規企業の参入等の情報が聞かれないため、現在の傾向が続く。								
都市型ホテル（副支配人）	・4～6月は大きなコンベンションがないことと、先の見通しが非常に読みにくくなり、1週間先を読むのに一生懸命な状態である。								
旅行代理店（業務担当）	・円高は海外旅行にはプラスに働くものの、逆に円高に伴う輸出関連企業の不振や原油高による燃油サーチャージの値上がり影響も大きく、トータルでは変わらない。								
タクシー運転手	・景気が停滞しているなかでは、客の財布のひもは緩まない。現在の傾向が今後も続く。								
通信会社（業務担当）	・4月は新入生需要および法人需要で前半は販売の好調が続く、さらに新サービスをきっかけに買い換え需要が伸びるが、新規需要は頭打ちになる。								
観光名所（職員）	・NHK大河ドラマ放送の影響で前年よりも良くなるが、それを除けば例年並みである。また、消費が落ちていると感じるため、これからも消費の緊縮傾向が続く。								
ゴルフ場（支配人）	・石油高により徐々に物価は上がりつつあるが、景気全般として急激な変化はない。								
ゴルフ場（従業員）	・4月の来客数は昨年を大きく上回るが、6、7月と動きが鈍い状況であり、今とさほど変わらない。								
美容室（経営者）	・4～5月は美容の繁忙期となる。おしゃれシーズンになるので期待したいが、現在の傾向をみると、良くならない。								
理容室（経営者）	・例年良くなる3月がほとんど先月と変わらない数字であるため、この傾向が続けば今後は悪くなる。								
美容室（店長）	・前年より客数が減少している。周りの状況を見ても、このままでは景気は良くならない。								
やや悪くなる	<table border="1"> <tr> <td>商店街（代表者）</td> <td>・ガソリン税の問題や中国産食品問題による食に対する不安、国産食料品の値上げで消費者に節約ムードが広がり、先行きは懸念材料が多い。景気は悪くなる。</td> </tr> <tr> <td>百貨店（営業担当）</td> <td>・気候が良くなるため期待したいが、百貨店で取り扱う高額品などは買い控えが出る。</td> </tr> <tr> <td>百貨店（営業担当）</td> <td>・株価がなかなか上がらないため、高額品の需要が見込めない。また、食料品関係も今後値上げが続くため、やや悪くなる。</td> </tr> <tr> <td>スーパー（店長）</td> <td>・ガソリンは安くなるかもしれないが、食料品は値上がりをする商品が多いという状況が続いているので、景気は良くなる傾向にない。</td> </tr> </table>	商店街（代表者）	・ガソリン税の問題や中国産食品問題による食に対する不安、国産食料品の値上げで消費者に節約ムードが広がり、先行きは懸念材料が多い。景気は悪くなる。	百貨店（営業担当）	・気候が良くなるため期待したいが、百貨店で取り扱う高額品などは買い控えが出る。	百貨店（営業担当）	・株価がなかなか上がらないため、高額品の需要が見込めない。また、食料品関係も今後値上げが続くため、やや悪くなる。	スーパー（店長）	・ガソリンは安くなるかもしれないが、食料品は値上がりをする商品が多いという状況が続いているので、景気は良くなる傾向にない。
商店街（代表者）	・ガソリン税の問題や中国産食品問題による食に対する不安、国産食料品の値上げで消費者に節約ムードが広がり、先行きは懸念材料が多い。景気は悪くなる。								
百貨店（営業担当）	・気候が良くなるため期待したいが、百貨店で取り扱う高額品などは買い控えが出る。								
百貨店（営業担当）	・株価がなかなか上がらないため、高額品の需要が見込めない。また、食料品関係も今後値上げが続くため、やや悪くなる。								
スーパー（店長）	・ガソリンは安くなるかもしれないが、食料品は値上がりをする商品が多いという状況が続いているので、景気は良くなる傾向にない。								

	スーパー（店長）	・競合店の出店、既存店ベースでの競争などが続く。客の消費動向も、今の経済状態では好転するとは考えにくく、今後も厳しい状況が続く。
	スーパー（総務担当）	・諸物価の値上がりやガソリンの高騰、不安定な政治等、様々な要因で客の自己防衛が働き、今後も消費は減少傾向となる。
	コンビニ（販売促進担当）	・富裕層の客がかなり減っている。今後は材料等が値上がりしてくるので120、130円台の商品が多くなるが、100円前後が一番売れる商品群であるため、全体の売り上げは若干落ちてくる。
	家電量販店（店長）	・原油高で商品価格が上がっているため、これから景気が良くなるとは考えられない。
	住関連専門店（経営者）	・消費者の中国製品などを避ける動きが食品分野などであるが、置き家具においても国産品の見直しが少し出てきている。ただ、諸物価の上昇で消費者の財布のひもは固く、先行きは厳しい。
	高級レストラン（経営者）	・4月以降の予約状況をみると非常に悪い。
	観光型ホテル（スタッフ）	・今期は近年まれにみる売上を確保することができたが、4月以降の予約状況は前年を下回っている。また同時に原価の高騰により、今期に比べ利益率が落ちることは確実である。
	観光型ホテル（営業担当）	・これまで一部で食材の値上げがあったが、4月より新たに飲料関係の値上げの打診がきており、今後、飲料等の売上への影響が出てくる心配がある。また、商品の値上げから、飲み放題プランの対応が厳しくなる。
	旅行代理店（従業員）	・4～5月の出足は悪い。売れているのは国内の低価格商品であり、海外の円高プラス効果はまだ現れていない。
	タクシー運転手	・所得が増えないなかで物価だけが上がっており、財布のひもがどんどん固くなっている。消費に回る余裕が少ないので、今後も期待できない。
	通信会社（企画担当）	・有力取次店の体制変更起因して、契約獲得の減少が予想される。
	通信会社（総務担当）	・ガソリン・原油の高騰に伴う不況感が否めず、これによる諸需要の低下が顕著である。個人消費も徐々に悪化しており、今後の身の回りの景気はやや悪くなる。
	競輪場（職員）	・減少傾向にあった来場者数は下げ止まりの傾向にあるが、前年より10%減少している。目に見える形での景気の回復傾向はみられない。
	設計事務所（所長）	・仕事の数が減っている。全体的に良くない。
悪くなる	衣料品専門店	・4月から保険制度が変わり、出費が多く、物価が上がっている。買い控えるとしたら洋服、ぜいたく品になるため、先行きは不透明である。
	衣料品専門店（店長）	・3月に入っても客足が商店街から遠のき、回復の兆しは依然としてない。生活関連各種商品の値上げがじわじわ浸透しており、買い控えに一層拍車をかけている。
	衣料品専門店（総務担当）	・客足と客の買物の様子をもて、購買意欲が感じられない。この傾向が今後も続く。
	乗用車販売店（従業員）	・主要部品が全然売れない。この傾向が今後も続く。
	競馬場（職員）	・前年より販売量は微減が続いていたが、今月になり急に下げ幅が大きくなった。原因がわからないため具体策がすぐに打ち出されず、今後は更に悪くなる。
	美容室（店長）	・いろいろな物価が上がるため、不況になる。
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	不動産業（従業員）
	経営コンサルタント	・かなり人の出が多くなり、売上も回復している。今後ガソリン税の廃止等のプラスの要因で人の動きが少し良くなる。ただ、長期的にみると建築業等の企業の不安定な部分が出てきて、不安要因はある。
変わらない	農林水産業（経営者）	・中国産食品の問題からくる風評被害で、国内の冷食メーカー向けも少し引き合いが弱くなっているが、逆に国産志向にこだわった商品がスーパーなどを中心に伸びてきている。結局プラスマイナスゼロである。居酒屋向けは行楽シーズンから夏場にかけて消費の伸びが期待される。
	農林水産業（従業者）	・飼料の値段は非常に上がっているが、プロイラーの需要がひっ迫しており、国産志向ということも含めて良い状況である。

	食料品製造業（経営者）	・NHK大河ドラマが始まり3か月が経過したが、関連する観光客は増加したものの、それ以外が減少しているため、納入先の業績はほとんど変わらない。NHK大河ドラマがなければ景気は悪くなっていたため、今後、今月より景気が良くなるとは考えにくい。
	繊維工業（営業担当）	・良い条件がまったくない。繊維、縫製の生産は中国から東南アジアの方に移行しているため、国内の工場は厳しい。
	鉄鋼業（経営者）	・住宅着工戸数や着工床面積は相変わらずマイナスが続いているが、その度合いは徐々に回復し、それが販売量の回復に繋がってきている。しかし、これが実需に基づくものか、仮需なのか、あるいは年度末という時期的な要因なのかを分析する必要がある。今後、円高、原料高による資材高騰等で新規需要が減少することが強く懸念される。新規建築物件では、設備投資の取りやめも出てきている。
	一般機械器具製造業（経営者）	・客の声等から判断して、当分は現在の停滞状況が続く。
	建設業（総務担当）	・資材の高騰や景気の悪化による個人住宅の着工減少はしばらく続く。
	輸送業（従業員）	・荷動きは、先月までは業種によってばらつきがあったが、今月に入り、紙、パルプ、飲料、雑貨、鉄等、どの業種でも悪くなっている。なかなか今後も期待がもてない。
	輸送業（従業員）	・3月に入り、荷動きが活発になってきているが、駆け込み需要の影響が大きい。4月に入ると短期的に暫定税率廃止の好影響があると予測するが、再可決されて復活すれば、原油高騰の影響もあり、景気は再び悪化することが懸念される。
	通信業（職員）	・来年度の折衝案件の増加量はわずかである。景気の状態は変わらない。
	金融業（営業担当）	・中小企業全般で、新たな設備投資の計画が見受けられない。当面は固定費の削減に意識が向かう。
やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・原料資材等の値上がりにより製品の値上げを行ったが、値上げ前に仮需要がかなりあったため、今後しばらくは売上が上がらない。
	金属製品製造業（企画担当）	・原材料の高騰や運送費の値上げ要求等、損益悪化要因が後を絶たない。一方で値上げ分を価格に転嫁できにくい状況であるため、今後も厳しい状況が続く。
	一般機械器具製造業（経営者）	・来月は以前からの仕事が受注できる予定なので、今月ほどは悪くならないが、景気は徐々に悪くなっている。
	通信業	・新年度の初頭はしばらく悪い。ただし、その後は九州新幹線や次世代通信等の関連案件が出るため、持ち直す。
	金融業	・原価の上昇や建築確認申請の遅延を原因とする中小企業の破綻がみられる。また、製造業は円高への対応が厳しい。株安の心理的な影響による消費の停滞もあると考えられる。今後、これらの影響はますます強まる。
	金融業（調査担当）	・これまで域内経済をけん引していた輸出産業が、サブプライムローン問題による米国経済の低迷や円高等の影響を受けることが懸念される。
	その他サービス業〔物産リース〕（従業員）	・取引先の状況は、原材料価格の高騰等から依然として設備投資の抑制が続いている。加えて、最近は大倒産や支払い延滞件数の増加等がみられており、今後、中小企業を取り巻く環境はますます厳しくなる。
悪くなる	家具製造業（従業員）	・建築関連の企業にとって建築確認申請の遅れは深刻である。遅れにより、出店を取りやめた企業も多い。また、新規住宅が少ないため、連動して家具の売行きも鈍っている現状であり、景気がすぐに上向き要因がない。
	電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品の金型を取り巻く環境は全般的に不透明さを増している。特に受注量の減少が大きく、また受注しても非常に短い納期を要求されるという状況であり、景気の先行きが全く読めない。電子部品金型も機械部品も非常に悪い。
	建設業（従業員）	・アメリカのサブプライムローン問題や原油高騰等による原材料の値上がり等で、収支に悪影響が出ている。また、受注競争の激化により、なかなか受注に結びつかず、利益確保も困難になる。この傾向が今後も続く。
	広告代理店（従業員）	・新聞折込広告は、相変わらず受注量が増えない。単月で前年比98%、通期で同95%となり、減収となった。百貨店が閉店する等、今後も消費の拡大は望めそうにない。
	経営コンサルタント	・量販店の大型倒産が続いている。銀行の貸し渋りにつながり、更なる不安材料となっている。
雇用	良くなる	-

関連	やや良くなる	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	
	変わらない	職業安定所 ( 職員 )	・原油等原材料の価格高騰分を価格転嫁することが困難な中小企業を中心に、景気の先行き不透明感がある。その影響で、業務量が多く求人をしたいができないという企業も少なくない。このような状況はここ数か月続いており、すぐに改善するとは考えにくい。
		学校 [ 専門学校 ] ( 就職担当 )	・求人数は増えているとはいえ、雇用形態についてはまだまだ非正規社員の採用が多い。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社 ( 経営者 )	・周りから受ける印象はかなり厳しい。雇用の形態をみても、アルバイト、パートが相変わらず多いし、契約社員やパートを正社員として雇用するというニュースを聞くが、一般的にはない。4月からは電気、ガスが値上がりする等、値上げが生活の基本的なところまで及んできているため、今後、景気は悪くなる。
		求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	・介護業界において、早朝・深夜・休日などに働く労働者の確保が難しく、慢性的な求人難が続いている。同様に学校や病院給食、ビルメンテナンスなどで働くパート労働者も低賃金のために年々確保が難しくなっている。企業は人材不足という経営難に陥っている。
		職業安定所 ( 職員 )	・2月以降人員整理を伴う事業縮小を図る企業が目立ってきており、新規求職者の増加が懸念される。
		職業安定所 ( 職員 )	・原油高等の影響で運輸業からの求人が減少しており、この先も好転する要素が見つからない。
		民間職業紹介機関 ( 職員 )	・先月に続き、企業求人ニーズが低下傾向にある。特にゼネラル系管理職については、前年比40%減と低迷している。この傾向が今後も続く。
		民間職業紹介機関 ( 社員 )	・4月からの事務派遣が前年比10%程度減少している。従来の求人のように1～2人というものは激減している。直接雇用の動きも鈍くなり、紹介事業も落ち着きをみせている。
		学校 [ 専門学校 ] ( 就職担当 )	・企業コメントに「下期は下方修正」の予想を聞くようになってきた。また、求人数も多少抑制気味である。
		学校 [ 大学 ] ( 就職担当者 )	・景気の不透明感から、採用計画に何らかの影響が出てくること懸念される。採用数充足のために採用基準を緩やかにすることは考えにくいいため、今後、採用環境はやや厳しくなる。
	悪くなる	人材派遣会社 ( 社員 )	・半導体関連・鉄鋼関係は好調と聞くと聞くと、その他は目立って良い業界がなく、地盤沈下は進みそうである。
		新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・原料、容器等の値上げが広告費の削減に及んでいる状況が更に進む。